

デーヴォ ガイド



2022.2.13-19

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

➤ 13日 月曜

I サムエル

12:16 今、しっかり立って、【主】があなたをあなたの目の前で行われる、この大きなみわざを見なさい。

12:17 今は小麦の刈り入れ時ではないか。

【主】が雷と雨を下されるようにと、私は主を呼び求める。あなたがたは王を求めることで、【主】の目の前に犯した悪が大きかったことを認めて、心に留めなさい。」

12:18 そしてサムエルは【主】を呼び求めた。すると、【主】はその日、雷と雨を下された。民はみな、【主】とサムエルを非常に恐れた。

12:19 民はみなサムエルに言った。「私たちが死なないように、しもべどものために、あなたの神、【主】に祈ってください。私たちは、王を求めることによって、私たちのあらゆる罪の上に悪を加えてしまったからです。」

12:20 サムエルは民に言った。「恐れてはならない。あなたがたは、このすべての悪を行った。しかし【主】に従う道から外れず、心を尽くして【主】に仕えなさい。

12:21 役にも立たず、救い出すこともできない、空しいものを追う道へ外れてはならない。それらは、空しいものだ。

12:22 【主】は、ご自分の大いなる御名のために、ご自分の民を捨て去りはしない。

【主】は、あなたがたをご自分の民とすることを良しとされたからだ。

12:23 私もまた、あなたがたのために祈るのをやめ、【主】の前に罪ある者となることなど、とてもできない。私はあなたがたに、良い正しい道を教えよう。

12:24 ただ【主】を恐れ、心を尽くして、誠



実に主に仕えなさい。主がどれほど大いなることをあなたがたになされたかを、よく見なさい。

12:25 あなたがたが悪を重ねるなら、あなたがたも、あなたがたの王も滅ぼし尽くされる。」

前節に、「主の声に聞き従わず…逆らうなら、主の手が…あなたがたの上にもくだる。」と言われた民でしたが、彼らが真実に決心するためには主のみわざが必要でした。主は季節的には有り得ない雷と雨を下されたのです。みことばに対してあいまいな者には、主のみわざが下されることがあります。それに気づきましょう。そして、恐れを持って従いましょう。

ここに来てイスラエルの民は、神の代わりに王を求めることによって、神の前に罪を犯したと悟りました。それゆえに厳かな思いになって、サムエルにとりなしの祈りを願いました。自らの非に気づいたなら、それを認め謙遜に助けを求めることは必要です。

サムエルも彼らのためにとりなさいならば、それは罪であると理解していました。民は彼の指導に従わなかったのですが、それでも自分に与えられた指導者としての使命を重く受け止めていたのです。人の非を思うよりも自分の使命を思いましょう。また誰かのために生きるように主から使命が与えられているなら、一方的な神の愛によって使命を全うしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14日 火曜

I サムエル



13:1 サウルは、ある年齢で王となり、二年間だけイスラエルを治めた。

13:2 サウルは、自分のためにイスラエルから三千人を選んだ。二千人はサウルとともにミクマスとベテルの山地にいて、千人はヨナタンとともにベニヤミンのギブアにいた。残りの兵は、それぞれ自分の天幕に帰した。

13:3 ヨナタンは、ゲバにいたペリシテ人の守備隊長を打ち殺した。サウルのほうは国中に角笛を吹き鳴らした。ペリシテ人たちは、だれかが「ヘブル人に思い知らせてやろう」と言うのを聞いた。

13:4 全イスラエルは、「サウルがペリシテ人の守備隊長を打ち殺し、しかも、イスラエルがペリシテ人の恨みを買った」ということを聞いた。兵はギルガルでサウルのもとに呼び集められた。

13:5 ペリシテ人はイスラエル人と戦うために集まった。戦車三万、騎兵六千、それに海辺の砂のように数多くの兵たちであった。彼らは上って来て、ベテ・アベンの東、ミクマスに陣を敷いた。

13:6 イスラエルの人々は、自分たちが危険なのを見てとった。兵たちがひどく追いつめられていたからである。兵たちは洞穴や、奥まったところ、岩間、地下室、水溜めの中に隠れた。

13:7 あるヘブル人たちはヨルダン川を渡って、ガドの地、すなわちギルアデに行った。しかしサウルはなおギルガルにとどまり、兵たちはみな震えながら彼に従っていた。

13:8 サウルは、サムエルがいることになって例祭まで、七日間待ったが、サムエルは

ギルガルに来なかった。それで、兵たちはサウルから離れて散って行こうとした。

13:9 サウルは、「全焼のささげ物と交わり*のいけにえを私のところに持って来なさい*」と言った。そして全焼のささげ物を献げた。

13:10 彼が全焼のささげ物を献げ終えたとき、なんと、サムエルが来た。サウルは迎えに出て、彼にあいさつした。

13:11 サムエルは言った。「あなたは、何と

いうことをしたのか。」サウルは答えた。「兵たちが私から離れて散って行こうとしていて、また、ペリシテ人がミクマスに集まっていたのに、あなたが毎年の例祭に来ていないのを見たからです。

13:12 今、ペリシテ人がギルガルにいる私に向かって下って来ようとしているのに、まだ私は【主】に嘆願していないと考え、あえて、全焼のささげ物を献げたのです。」

サウルは王となった頃は謙遜で寛容でありました。しかし多くの人がそうであるように、高い立場が与えられて周囲から認められるにつれて、謙遜を忘れ高慢になってしまいました。これはクリスチャンでも起こり得ることで、自己中心からきよめられていないことが明らかになるのです。サウルはその標本のようなものです。

サウルは高慢でありながら、信仰は弱く、ペリシテ軍やイスラエルの様子(6)を見て恐れてしまいました。そこで祭司しか許されていない、いけにえを献げるということをしてしまったのです。

彼はもっともらしい弁解をしますが、それも主のみこころと真理が分っていないことを暴露しています。それは単に戦いのための儀式ではありません。これから聖なる神に勝利していただくためなのですから、神様に従わなければ全く意味がありません。サウルは御心抜きで、ただ嘆願だけす

れば良いと思っていたようです。

どんなに人から誉められる立場でも、権限をもらって影響力があっても、主の前には赦された罪人にしか過ぎないのだということを、決して忘れないようにしましょう。そのように発言し、行動しましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 15日 水曜

I サムエル

13:13 サムエルはサウルに言った。「愚かなことをしたものだ。あなたは、あなたの神、【主】が命じた命令を守らなかった。【主】は今、イスラエルにあなたの王国を永遠に確立されたであろうに。

13:14 しかし、今や、あなたの王国は立たない。【主】はご自分の心にかなう人を求め、【主】はその人をご自分の民の君主に任命しておられる。【主】があなたに命じられたことを、あなたが守らなかったからだ。」

13:15 サムエルは立って、ギルガルからベニヤミンのギブアへ上って行った。サウルが彼とともにいた兵を数えると、おおよそ六百人であった。

13:16 サウルと、息子ヨナタン、および彼らとともにいた兵は、ベニヤミンのゲバにとどまっていた。一方、ペリシテ人はミクマスに陣を敷いていた。

13:17 ペリシテ人の陣営から、三つの組に分かれて略奪隊が出て来た。一つの組はオフラの道を進んでシュアルの地に向かい、

13:18 一つの組はベテ・ホロンの道を進み、一つの組は荒野の方、ツェボイムの谷を見下ろす国境の道を進んだ。

13:19 さて、イスラエルの地には、どこにも鍛冶屋を見つけることができなかった。ヘブル人が剣や槍を作るといけない、とペリシテ人が言っていたからであった。

13:20 イスラエルはみな、鋤や、鍬、斧、鎌を研ぐためにペリシテ人のところへ下って行っていた。

13:21 鎌や、鍬、三又の矛、斧、突き棒を直すのに、料金は一ピムであった。



13:22 戦いの日に、サウルやヨナタンと一緒にいた兵のうちだれの手にも、剣や槍はなかった。ただサウルと息子ヨナタンだけが持っていた。

13:23 ペリシテ人の先陣はミクマスの渡りに出た。

サムエルはサウル王が主への信仰よりも自分の考えを優先し、主の御心に背いたことから、サウルが王から退けられると明言しました。サウル王は主によって選ばれたのですが、だからといって何をしても許されるということではありません。私たちが主に任命されたからこそ主に従うべきです。

またイスラエルの軍がいかに苦境にあるかが記されています。3000人が600人に減り、また鉄の武器を持っているは王と王子だけという弱小軍です。

そのような状況のときに信仰のない人は、神になど従ってられないと、神無視の行動に出ます。しかし、後にペリシテ人が同士討ちをし、去っていたイスラエル兵が戻ってきたように、この状況は神の力が表れる絶好の機会なのです。

どのような中にあっても、自分が立場的に尊重されていても、恐れに支配されそうなときにも、ただ神を「信じていのちを保つ者」でありましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶ 16日 木曜

I サムエル



14:1 そのようなある日、サウルの息子ヨナタンは、道具持ちの若者に言った。「さあ、この向こう側のペリシテ人の先陣の方へ行こう。」しかし、ヨナタンは父にそのことを知らせなかった。

14:2 サウルはギブアの外れで、ミグロンにある、ざくろの木の下に座っていた。彼とともにいた兵は約六百人であった。

14:3 アヒヤは、エポデを身に着けていた。アヒヤはアヒトブの子で、アヒトブはイ・カボデの兄弟、イ・カボデはピネハスの子、ピネハスは、シロで【主】の祭司であったエリの子である。兵たちは、ヨナタンが出て行ったことを知らなかった。

14:4 ヨナタンがペリシテ人の先陣の側に越えて行こうとしていた山峡には、手前側にも、向こう側にも、切り立った岩があって、一方の側の名はボツェツ、もう一方の側の名はセンネといった。

14:5 一方の岩は北側、ミクマスの側にあり、もう一方の岩は南側、ゲバの側にそそり立っていた。

14:6 ヨナタンは道具持ちの若者に言った。「さあ、この無割礼の者どもの先陣のところへ渡って行こう。おそらく、【主】がわれわれに味方してくださるだろう。多くの人によっても、少しの人によっても、【主】がお救いになるのを妨げるものは何もない。」

14:7 道具持ちは言った。「何でも、お心のままになさってください。さあ、お進みください。私も一緒に参ります。お心のままに。」

14:8 ヨナタンは言った。「さあ、あの者どものところに渡って行って、われわれの姿を現

すのだ。

14:9 もし彼らが『おれたちがおまえらのところに行くまで、じっとしている』と言ったら、その場に立ちとどまり、彼らのところの上って行かないでいよう。

14:10 しかし、もし彼らが『おれたちのところの上って来い』と言ったら、上って行こう。【主】が彼らを、われわれの手に渡されたのだから。これが、われわれへのしるしだ。」

14:11 二人はペリシテ人の先陣に身を現した。するとペリシテ人が言った。「おい、ヘブル人が、隠れていた穴から出て来るぞ。」

14:12 先陣の者たちは、ヨナタンと道具持ちに呼びかけて言った。「おれたちのところの上って来い。思い知らせてやる。」ヨナタンは道具持ちに言った。「私について上って来なさい。【主】がイスラエルの手に彼らを渡されたのだ。」

14:13 ヨナタンは手足を使ってよじ登り、道具持ちも後に続いた。ペリシテ人はヨナタンの前に倒れ、道具持ちがうしろで彼らを打ち殺した。

14:14 ヨナタンと道具持ちが最初に討ち取ったのは約二十人で、ツェメドのおおよそ半分の広さの場所で行われた。

14:15 そして陣営にも野にも、すべての兵のうち恐れが起こった。先陣の者、略奪隊さえ恐れおののいた。地は震え、非常な恐れとなった。

14:16 ベニヤミンのギブアでサウルのために見張りをしていた者たちを見ると、大軍は震えおののいて右往左往していた。

14:17 サウルは彼とともにいる兵に言った。「だれがわれわれのところから出て行った

かを、点呼して調べなさい。」彼らが点呼すると、ヨナタンと道具持ちがいなかった。

14:18 サウルはアヒヤに言った。「神の箱を持って来なさい。」神の箱は、そのころ、イスラエル人の間にあったからである。

神様はサウルが心配しなければならないような、限定された弱い方ではなく、人数にも装備にも限定されずに勝利を収める方です。そして義なる戦いには、信仰の人を用いられます。ヨナタンこそまさに信仰の人で、主のために戦い(6)、勝利を信じ(6)、信望があり(7)、主の御心を求めて従い(10)、信仰の勇氣がありました。

私たち自身はどうでしょうか。ヨナタンのように主に用いてもらえるような者になりましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 17日 金曜

I サムエル



14:19 サウルが祭司とまだ話している間に、ペリシテ人の陣営の騒動は、ますます大きくなっていった。サウルは祭司に「手を戻さない」と言った。

14:20 サウルと、彼とともにいた兵がみな集まって戦場に行くと、そこでは剣をもって同士討ちをしていて、非常に大きな混乱が起こっていた。

14:21 それまでペリシテ人について、彼らと一緒に陣営に上って来ていたヘブル人も転じて、サウルとヨナタンとともにいるイスラエル人の側につくようになった。

14:22 また、エフライムの山地に隠れていたすべてのイスラエル人も、ペリシテ人が逃げたと聞いて、戦いに加わってペリシテ人に追い迫った。

14:23 その日、【主】はイスラエルを救われた。そして、戦いはベテ・アベンに移った。

14:24 さて、その日、イスラエル人はひどく苦しんでいた。サウルは、「夕方、私が敵に復讐するまで、食物を食べる者はのろわれよ」と言って、兵たちに誓わせていた。それで兵たちはだれも食物を口にしていなかったのであった。

14:25 この地はどこでも、森に入っていくと、地面に蜜があった。

14:26 兵たちが森に入ると、なんと、蜜が滴っていたが、だれも手に付けて口に入れる者はいなかった。兵たちは誓いを恐れていたのである。

14:27 しかし、ヨナタンは、父が兵たちに誓わせたことを聞いていなかった。彼は手にあった杖の先を伸ばして、蜜蜂の巣に浸し、

それを手に付けて口に入れた。すると彼の目が輝いた。

14:28 兵の一人がそれを見て言った。「あなたの父上は、兵たちに堅く誓わせて、『今日、食物を食べる者はのろわれる』とおっしゃいました。それで兵たちは疲れているのです。」

14:29 ヨナタンは言った。「父はこの国を悩ませている。ほら、この蜜を少し口にしたので、私の目は輝いている。

14:30 もしも今日、兵たちが、自分たちが見つけた敵からの分捕り物を十分食べていたら、今ごろは、もっと多くのペリシテ人を討ち取っていただろうに。」

14:31 その日彼らは、ミクマスからアヤロンに至るまでペリシテ人を討った。それで兵たちはたいへん疲れていた。

14:32 兵たちは分捕り物に飛びかかり、羊、牛、若い牛を取り、その場で屠った。兵たちは血が付いたままで、それを食べた。

14:33 すると、「ご覧ください。兵たちが血のままで食べて、【主】に罪を犯しています」と、サウルに告げる者がいた。サウルは言った。「おまえたちは裏切った。今、大きな石を転がして来なさい。」

14:34 そしてサウルは言った。「兵の中に散って行って、彼らに言いなさい。『それぞれ自分の牛か羊を私のところに連れて来て、ここで屠って食べなさい。血のままで食べて【主】に罪を犯してはならない。』」兵はみな、その夜、それぞれ自分の手で牛を連れて来て、そこで屠った。

14:35 サウルは【主】のために祭壇を築いた。これは、彼が【主】のために築いた最初の祭壇であった。

サウルは祭司とともに主の御心を聞こうとしましたが、状況が良いと判断すると、自分の判断で戦いに出て行ってしまいました。目先の結果から見ると、良い判断のように見えます。しかしそこにサウルの独善と高慢が生じてしまいました。すなわち彼は自己流の信仰で民に断食の義務を負わせ、苦しめたのです。

主の御心を日頃から聞いて、重要な時に判断を間違わないようにしましょう。そして勝利のときも自分の判断力を過信せずに、あくまでも主の前に謙遜でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



18日 土曜

I サムエル



14:36 サウルは言った。「夜、ペリシテ人を追って下り、明け方までに彼らからかすめ奪い、一人も残しておかないようにしましょう。」すると兵は言った。「あなたが良いと思うようにしてください。」しかし祭司は言った。「ここで、われわれは神の前に出ましょう。」

14:37 サウルは神に伺った。「私はペリシテ人を追って下って行くべきでしょうか。彼らをイスラエルの手に渡してくださるのでしょうか。」しかしその日、神は彼にお答えにならなかった。

14:38 サウルは言った。「民のかしらたちはみな、ここに近寄りなさい。今日、どうしてこの罪が起こったのかを確かめてみなさい。」

14:39 まことに、イスラエルを救う【主】は生きておられる。たとえ、それが私の息子ヨナタンであっても、必ず死ななければならぬ。」しかし、民のうちだれも彼に答える者はいなかった。

14:40 サウルはすべてのイスラエル人たちに言った。「おまえたちは、こちら側にいなさい。私と息子ヨナタンは、あちら側にいることにしよう。」民はサウルに言った。「あなたが良いと思うようにしてください。」

14:41 サウルはイスラエルの神、【主】に「みこころをお示してください」と言った。すると、ヨナタンとサウルが取り分けられ、民は外れた。

14:42 サウルは言った。「私か、私の息子ヨナタンかを決めてください。」するとヨナタンが取り分けられた。

14:43 サウルはヨナタンに言った。「何をし

たのか、私に話しなさい。」ヨナタンは彼に話した。「確かに、手にあった杖の先で、少しばかりの蜜を口にしました。この私が死ななければなりません。」

14:44 サウルは言った。「神が幾重にも罰してくださいるように。ヨナタン、おまえは必ず死ななければならない。」

14:45 民はサウルに言った。「この大勝利をイスラエルにもたらしたヨナタンが死ななければならないのですか。絶対にそんなことはあり得ません。【主】は生きておられます。あの方の髪の毛一本でも地に落ちてはなりません。今日、あなた方は神とともにこれをなされたのです。」こうして民がヨナタンを救ったので、彼は死ななかった。

14:46 サウルはペリシテ人を追うのをやめて引き揚げ、ペリシテ人は自分たちのところへ帰って行った。

14:47 さてサウルは、イスラエルの王権を握ってから、周囲のすべての敵と戦った。モアブ、アンモン人、エドム、ツォバの王たち、ペリシテ人と戦い、どこに行っても彼らを敗走させた。

14:48 彼は勇気を奮って、アマレク人を討ち、イスラエル人を略奪者の手から救い出した。

14:49 さて、サウルの息子は、ヨナタン、イシュウィ、マルキ・シュア、二人の娘の名は、姉がメラブ、妹がミカルであった。

14:50 サウルの妻の名はアヒノアムで、アヒマアツの娘であった。軍の長の名はアブネルで、ネルの子でサウルのおじであった。

14:51 キシュはサウルの父であり、アブネルの父ネルは、アビエルの子であった。

14:52 サウルの一生の間、ペリシテ人との激しい戦いがあった。サウルは勇気のある者

や、力のある者を見つけると、その人たちをみな、召しかかえることにしていた。

サウルは勝手な命令を下し、主の答えがなかった原因を、命令を破った者の罪と決め付けました。それでヨナタンが殺されそうになりましたが、信仰と人格に優れたヨナタンは民に助けられました。

自己満足な決め事で、自分が信仰的であると勘違いしていることはないでしょうか。自分の信仰深さに満足していると、主ご自身に目が向かなくなります。むしろ常に主の御心を求めていきましょう。またヨナタンのように生きて、主に助けられるような者でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15:1 サムエルはサウルに言った。「【主】は私を遣わして、あなたに油を注ぎ、主の民イスラエルの王とされた。今、【主】の言われることを聞きなさい。

15:2 万軍の【主】はこう言われる。『わたしは、イスラエルがエジプトから上って来る途中で、アマレクがイスラエルに対して行ったことを覚えていいる。

15:3 今、行ってアマレクを討ち、そのすべてのものを聖絶しなさい。容赦してはならない。男も女も、幼子も乳飲み子も、牛も羊も、らくだもろばも殺しなさい。』

15:4 サウルは兵を呼び集めた。テライムで彼らを数えると、歩兵が二十万、ユダの兵が一万であった。

15:5 サウルはアマレクの町へ行って、谷で待ち伏せした。

15:6 サウルはケニ人たちに言った。「さあ、アマレク人のもとを離れて下って行きなさい。私があなたがたを彼らと一緒にするといけなから。あなたがたは、イスラエル人がみなエジプトから上って来たとき、親切にしてくれたのです。」ケニ人はアマレク人の中から離れた。

15:7 サウルは、ハビラからエジプトの国境にあるシュルに至るまで、アマレク人を討ち、

15:8 アマレク人の王アガグを生け捕りにし、その民のすべてを剣の刃で聖絶した。

15:9 サウルとその兵たちは、アガグと、肥えた羊や牛の最も良いもの、子羊とすべての最も良いものを惜しんで、これらを聖絶しようとしなかった。ただ、つまらない値打ちのないものだけを聖絶したのである。

アマレクはかつてイスラエルに対して、虚を突いて後ろから攻撃しました。そのイスラエルの存在自体を認めないで、多くを殺しました。アマレク自らがイスラエルと両立できないような戦いを仕掛けてきたので、イスラエルは彼らを滅ぼす以外になかったのです。

聖書ではアマレクはサタンのひながたとして解釈することができます。サタンは信仰者を攻撃し、その救いと使命をなきものにしようと、手を尽くします。私たちはサタンの誘惑や力を残しておくことはできないのです。しかしサウルは自分のためにになりそうなものを残してしまいました。それはまさに神様に背く行為であって、サタンの力を残しておくようなものです。

サタンとその罪、そしてサタンの力である誘惑を聖絶しましょう。主の御心に反するものは、惜しいと思わないで、きっぱりと処分しましょう。拒否しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

